

旭神経内科リハビリテーション病院

前号で紹介させていただきました。就労・復職を目指す方を対象とした集団訓練「さくらの会」(週1回)は、感染対策に気を付けつつ継続しております。例年、実践の一環として秋頃に開催してきました「高次脳カフェ」ですが、今年度は感染対策を考慮し、オンラインツールを活用して、「Webお茶会」という新形態での実施を企画しております。今後は当事者・ご家族・関係者の方々に、対面方式以外の方法も選択・活用していただけますよう、オンライン方式を取り入れた支援方法の提供を検討しています。そのひとつとして、年度内にはオンライン講習会を開催できればと考えております。また、当院独自の体操プログラムも、配信に向けて鋭意製作中です。

亀田リハビリテーション病院

今年度は新型コロナウイルスの影響でいつも行われている研修会や映画上映会等がほとんど実施できなくなりました。そのため、高次脳機能障害に関する安房地域を中心としたマップやパンフレット作りを行っていき、連携の強化の余地作りを丁寧にしていく予定です。また昨年度より新たな障害者就業・生活支援センターの関わりを強化し就労支援の連携作りも行っていきます。そして家族会との連携も改めて見直し、バックアップやサポートなどの強化をしていきたいと思います。

総合病院 国保旭中央病院

当院神経精神科デイケアセンターでは、高次脳機能障害の方が、他の精神障害をお持ちの方と一緒に活動をしています。ご家族や地域のサポーターと密な連携を図り、地域に根ざした利用者さん一人一人の「希望する生活」により近づいていくことを目指しています。「スポーツ」「リラクゼーション」「料理」「趣味の教室」といった定期プログラム、「社会資源見学会」「就労支援プログラム」等の特別プログラムを実施しています。また、個々のニーズに対応するため、本人・家族との面談や訪問などの個別支援を提供しています。コロナ禍でも変わらず、人とつながりを持ち、自分の好きなこと・やりたいことに挑戦できる場所でありたいと考えています。



▼秋晴れの下、プログラムで散歩外出



▲料理教室で作ったサラダ

編集後記

■冬に向かい新型コロナが拡大していますね。当事者の皆様、外部と接触する機会が減り、生活の中での困り事をご自分やご家族だけで抱え込んでいませんか。今回の特集でご紹介した「生活版ジョブコーチ」は、皆様の生活自立や安定化をサポートするための手法です。こんな時だからこそ、この手法を活用して生活の困り事を一つでも解決できたらいいですね。生活支援に携わっている皆様、是非ご一読ください。そして興味を持たれた方は、来年2月に開催予定の同研修会にも是非ご参加ください！(詳細は追ってHPに掲載する予定)。(四代目H)

■Web研修に変わったいま、掲示板の内容も少し変化しています。写真で読む紙面を目指していた掲示板が、Web配信によって掲載する写真がなくなったのです。講習会などを配信するスタッフを写しても、どれも同じ。なんか味気ないなあ。それでも撮った写真から真剣に取り組んでいる姿が伝わってきました。いつも患者様の支援をしているスタッフが、空いている時間で配信データを作成。練習を何度も繰り返している姿と重なりました。来年の講習会もWeb配信を予定しています。皆様のお役に立つ情報を全国に発信していく掲示板と共にどうぞよろしくお願いします。(Y)

千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援普及事業広報誌

こ〜じのう

掲示板



42

- 特集 新しいヘルパー支援の形
～生活版ジョブコーチ支援の紹介～
- 支援センターだより
- 全国・千葉の動き・イベント講習会報告

こ〜じのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関する情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。



「よろしくお願いします」

千葉県千葉リハビリテーションセンター

高次脳機能障害支援センター センター長 長谷川 純子
はせがわ じゅんこ



千葉リハ高次脳機能障害支援センターが開設してはやくも10年目を迎えました。高次脳機能障害支援センターの初代太田令子センター長、二代目大塚恵美子センター長、そして三代目小倉由紀センター長に続き、4月より四代目を引き継ぐことになりました。初代、二代目と同じく心理職です。私は大学病院の急性期医療から臨床をスタートし、その後、リハビリテーション病院や障害者支援施設の心理職として、医療・福祉の立場から、当事者やご家族の支援に携わってきました。高次脳機能障害支援に関わるきっかけは、もはや大昔の話になりますが、当時、高次脳機能障害者の支援を全国に先駆けて取り組み始めていた名古屋市総合リハビリテーションセンターでたまたま心理の学生としてアルバイトを始め、そこで心理職として活躍しておられた故阿部順子先生に出会ったことでした。高次脳機能障害は、一見するとわかりにくく、生活のさまざまな困りごとを引き起こすやっかいな症状ではあるけれども、その障害に気づいて適切な支援を行うことができれば、その人のできることや活動の幅が広がっていくのだということを、様々な実践を通して学ばせていただき、気がつけばどっぷりと高次脳支援にはまり込んでいました。気がつけばあれからうん十年…あのとき高校生だった当事者の若者も、いまや青年期、成人期を過ぎて中年期へ突入…そんな長い時間をとともに歩んできたんだなあと改めて思い返す次第です。高次脳機能障害支援センターは、障害を抱えながらもその人らしい生活ができるよう、＜その人の適応力を高め＞＜周りの環境を整え＞＜困っている方々の地域の多くの方々知ってもらい社会や制度を変えていく＞という目的に向かって日々支援を行っています。特にこの数年は、個別支援の中で、地域の病院、福祉事業所、学校、職場の支援者の皆さまと深めてきた連携を、さらに広く地域へ向け、支援の輪を広げていくことに力を入れています。

経験と年齢だけは古参となった私と、立ち上げから10年目に突入したいいまも進化を続ける高次脳機能障害支援センターとが融合することで、少しでもよい方向へ化学反応が起きよう、千葉リハ内外関係者の皆様のお力もお借りしながら、精一杯努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

こ〜じのう

掲示板

2020.12vol. 42

発行日 ■ 2020年 12月 4日

発行 ■ (社福) 千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハ リハビリテーションセンター
千葉市緑区善田町 1-45-2 Tel. 043-291-1831(代) 内 198

発行責任者 ■ 高次脳機能障害支援センター センター長 長谷川純子
http://www.chiba-reha.jp/ ※ ホームページからご覧いただけます





高次脳機能障害支援普及事業全国連絡協議会

2020.6.24
WEB開催

全国連絡協議会では、高次脳機能障害の支援にあたり、各ブロックで関係機関の連携や職場復帰や運転支援など同じような課題を抱えていることが分かりました。また、その課題に対して、各地域で患者団体や家族会や病院と協力して少しでも解消するような取り組みを知ることでも今後の支援にいかせればと思いました。厚生労働省の担当課からも最新の施策の動向を伝えていただきました。今後とも、全国規模の動向を踏まえながら日々の支援を行っていく大事さを考えさせられる機会となりました。

高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

2020.7.17
WEB開催

本年度は、新型コロナウイルスの影響によりWEB開催となりました。講演は神奈川リハの瀧澤学氏から多職種連携コンサルテーション事例検討会についてお話をいただき、必要な情報への気づきや当事者の長期的な変化について学びました。また茨城県の家族会の活動報告と当事者自身からの発表があり、当事者の実体験からの様々な思いを伺いました。実践報告は、沖縄県から自動車学校や警察との連携した運転再開支援について、新潟県から家族支援を中心に報告がありました。今回は全国のコーディネーターと直接会って話すことはできませんでしたが、千葉リハも参加した「つながろうプロジェクト」の報告もあり、今できることを考える機会となりました。

千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク担当者会議

2020.8.7
旭中央病院

コロナ渦ではありましたが、千葉県担当者、千葉リハビリテーションセンター、旭神経内科リハビリテーション病院、亀田リハビリテーション病院に加え、今年度より地域支援拠点機関として旭中央病院も新たに加わり、皆で顔を合わせ、各々の取り組みの報告と意見交換を行ないました。意見交換では、千葉県の各地域での支援の現状と課題について意見を交換し、各支援拠点機関の高次脳機能障害支援コーディネーターの知識と技術の向上のための研修会の実施なども検討しました。新たに支援拠点機関が加わり、より地域に根ざした支援を実施しながら、千葉県全体に支援の輪を広げていけるよう、連携を図っていききたいと思います。



▲8/7 旭中央病院にて



高次脳機能障害地域支援者向け連続講座2020

第1回 WEB開催

2020.10.14 14:00-15:00 主催:千葉リハビリテーションセンター



講座を聴講して

今回、Web開催とすることでZoomでの視聴は初めての参加となりました。少々戸惑いはありましたが、画像の見やすさや内容も整理されており、十分見こたえがあり分かり易かったです。高次脳機能障害を抱える利用者様と関わっている中で、頭では分かっているけれども目の前の問題に目を奪われがちで、自分の中で整理しきれないまま対処をしていく事が多々ありました。基本に立ち返り、再度高次脳機能障害の捉え方を理解を深める良い機会となりました。特に高次脳機能のピラミッド構造は、土台を一つ一つ積み上げていく事の重要性とご自身の気持ちへ支援していくには、支援者側のアプローチの中にテクニックや自身の幅の広さが必要と感じました。このような機会を作って頂き、ありがとうございました。

更生園 轟

第16回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会

脳損傷者の自動車運転再開に必要な知識と支援の実際

WEB開催

2020.10.23 18:00-19:30 主催:千葉リハビリテーションセンター



▲職場内で視聴の様子

講座を聴講して

千葉懇話会は初のWeb開催となり、普段とは異なる形で参加でした。今回は東京都リハビリテーション病院の竹原先生の講義があり、運転に関わる法的な知識をはじめ、運転評価や東京都リハビリテーション病院での取り組み、海外の運転ガイドラインについても紹介がありました。失語症に対する運転支援の話もあり、失語症特有の評価の視点について勉強になりました。支援者は対象者のニーズだけでなく、家族の同意、社会の安全も考慮した上で、神経心理学的検査をはじめ、ドライビングシミュレーターや実車評価など多角的な視点で評価し、その方に合った運転再開条件についても模索していくことが大切であると改めて感じました。また、千葉県では年々自動車運転再開支援を行っている医療機関が増えている一方で、地域や施設によって行える支援には限度があります。より良い支援を行うために、路上運転を想定した院内支援や実車支援について支援者間での情報共有、免許センターや教習所との連携もより一層深めていく必要があると感じました。

リハ療法部 OT越田

支援センター

面

ヘルパー支援
手順書作成

- ・ 高次脳機能障害とは
- ・ 生活自立に向けた支援
- ・ 高次脳機能障害支援におけるヘルパーさんの役割
- ・ ご本人の障害特性
- ・ 環境調整と関わりのポイント
- ・ 支援目標
- ・ 支援内容

高次脳機能障害とは

[illegible]

本人に合った方法(環境)がわかつたら、地域支援者に繋げるための『ヘルパー支援手順書』を作成します。項目は、本人の障害特性と対応、ヘルパーの役割、支援のポイント、実際の支援内容等、となっています。具体的には、自立できていない生活行動のすべてを対象にせず、優先順位をつけて達成しやすい目標を設定すること、ヘルパーの役割は、介助する事ではなく、見守り・声かけ・確認が中心となること、一旦目標を決めても目の前の困りごとに注意が向き目標がぶれることがあるため、今の目標に達するように修正してあげること、などが盛り込まれています。

生活版ジョブコーチとは？

高次脳機能障害者が自立生活をしていくために必要な知識や技術を、実際の生活場面で訓練し援助する訪問型の支援です。これは名古屋市長総合リハビリテーションセンターが開発したアウトリーチ型支援です。一般的な訪問型介護サービスは直接的な援助ですが、生活版ジョブコーチ支援は介助ではなく間接的な『自立への見守り』で、家族支援や環境調整などの対応も必要とされます。そのため、『介助』から『自立への見守り』という新しい支援に認識を変える事が必要です。支援内容は、家事、金銭管理、服薬管理、スケジュール管理、など生活全般に及びます。

薬を飲み忘れないように
自己管理したい

生活版ジョブコーチ支援研修会

この支援手法を多くの方に知って頂くために、県内の地域支援者向けに2018年度より研修会を開催しています。今年度はWEB研修会での開催を予定しています。日程が決定しだい千葉リハホームページにてお知らせ致します。ぜひご参加下さい。

▲2019年度研修会の様子

物の住所を
決めましょう

▼片づけが上手いかわからない原因を評価

献立作成が大変なんですね

書き出しています

献立作成

食材リストアップ

食材リストを見ながら
献立表と買う物リストを
作成しています

自立に向けて

生活版JC支援は、目標支援が達成したら終了となります。ただし、支援を終了したとたんに今まで出来ていなかったことが出来なくなってしまう方もいるため判断は慎重にする必要があります。「支援の中での自立が出来ていることが高次脳機能障害者の自立の一つの形」という考えも必要になります。

支援あるある

ご本人が目標にしたことが出来るようになると、「訪問しても確認して見て
 いるだけ、もうヘルパーは終了でもよいのでは？」と言われることがあります。
 ず、ヘルパーさんは直接往き出すことがないとし、釈明出来るようです。
 しかし、ヘルパー訪問を中止したとたん、今まで出ていたことが出来な
 くなってしまいがちです。ご本人から「来てくれるから出来るんです」
 と言う言葉が聞かれるように、ヘルパーさん「来てくれることで、行動が起
 こせる・軌道修正が出来る・繰り返してよって定着出来る、のです。

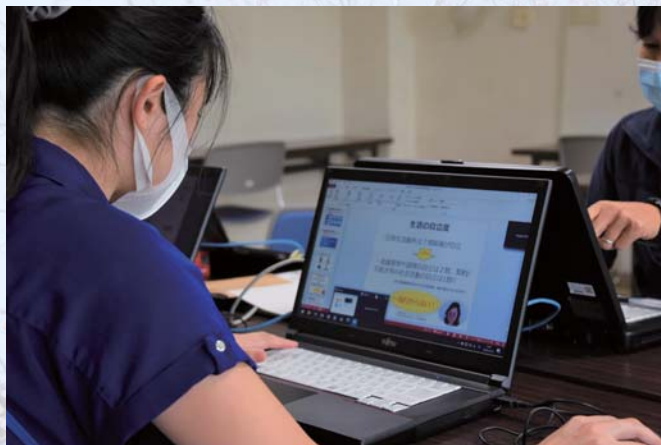
ヘルパー支援開始

ヘルパーへの引継ぎ:まずは支援手順書をもとに丁寧に説明をします。そして実際の支援を行う場面を見て頂きます。

ヘルパーフォローアップ:伝達した支援が上手く行われているか、困ることはないか、訪問し確認します。支援状況に合わせてフォローアップ頻度を変えていきます。



新型コロナウイルス感染症対策としてWeb研修を企画しました!



▲連続講座配信当日の様子



今年度の研修会は、新型コロナウイルス予防対策として、例年の集合形式からWEBによるオンライン研修会へと企画を変更し、9月の「家族のつどい」での試行(集合研修とWEBのハイブリッド開催)を経て、10月には「地域支援者向け連続講座」「高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会」の2つのWEB研修会の開催にチャレンジしました。オンライン研修に関しては全員が初心者マーク、特に10月の研修会は、想定していた人数を大幅に超えての申し込みがあり、嬉しい反面、最後まで滞りなく配信できるのか、担当者とともにハラハラドキドキの連続でした。どちらの研修会も大きなトラブルなく無事終わることができ、スタッフ一同安堵しています。残りの研修会も頑張ります!

支援センターパンフレット、ひょっとしてチラシを改訂しました!

新年度に入り千葉県の地域支援拠点機関が増えた関係で、支援センターから発行しているパンフレットやチラシの改訂をしました。「ひょっとして『高次脳機能障害』チェックリスト」(右)は、大人と子ども用が区別できるように表面を変更。やわらかいイメージと興味を引くゆるいイラストに仕上がりました。また表紙の変更に伴い、裏面のチェック項目も学校に関連した見直しをしました。支援センターパンフレットは、総合窓口の受付部署名が総合相談部に変更となっております。パンフレット、チラシをご希望の方は、掲示板8面の発行先にご連絡ください。



▲ひょっとしてチラシ小児版

2020.9.16

第1回 家族のつどいを開催しました!

社会適応をめざしたグループ活動の報告をします。



▲集合形式の様子



▲Zoom操作をする様子

9月16日に8か月ぶりに家族のつどいを開催することができました。今年の2月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年の2カ月に1度の家族のつどいを行う事ができない状況でした。今回新型コロナウイルス対策の新しい生活様式に合わせて、これまで通りお集まりいただく集合形式に加え、初めての試みとして講義のWeb配信を行いました。当日はお越しいただいて参加されたご家族が11名、ご自宅で講義動画を視聴されたご家族が8名いらっしゃいました。前半は当センター長の長谷川より「ストレスケア」の講義を行い、高次脳機能障害の当事者を支えるご家族が抱えるストレスとその影響、また自分のストレス状態を知りストレスと上手に付き合う方法についてお話ししました。その後、お集まりいただいた方々は小人数のグループに分かれてのグループワークを行いました。ご参加いただいたご家族からは、「久しぶりに他の方と話ができてストレスが緩和された気がする。」、web参加の方からは、「今後もこの形式があると参加しやすい。」等の感想をいただきました。今年度は、引き続きこの2通りの方法で家族のつどいを行っていく予定です。

information Web開催

■当事者・家族のための
高次脳機能障害勉強会2020

配信日時: 2021.1.13 (水) 14:00-15:00
対象者: 千葉県内にお住いの当事者、その家族
参加費: 無料

■第17回高次脳機能障害
リハビリテーション講習会

配信期間: 2021.1.22 (金)-1.28 (木)
対象者: 当事者、家族、行政機関、医療機関、地域包括支援センター、就労移行・就労継続機関等からの参加者など
参加費: 無料

※お問い合わせは8面の発行元へ